

日刊 動労千葉

82, 1, 1

No. 935

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五ノ六(公衆)四三三二七二〇七



闘春

国鉄千葉動力車労働組合

執行委員長

関川 宰

一九八二年の初春を迎え、本年の闘いの決意を、全組合員・家族の皆さんと全国の闘う仲間の方々に申し上げ、あわせて新年のごあいさつを申し上げます。

私たち動労千葉は変質した動労「本部」と決別し、三里塚反対同盟と連帯して闘ってきたことにより、八〇年代に通用する自前の労働運動を少しづつ実現できているのではないかと思います。三里塚闘争をとりくむなかで、三月ジェット闘争をやるだけの組合に成長してきました。いまも千三百が一致団結して闘っております。

一九八二年が明けましたが、なによりも三里塚二期着工攻撃が切迫してきています。三里塚の石橋さんはじめ敷地内の方々は、「柱に身体をしばりつけても頑張る」と決意を述べていますが、そこまで権力にふみこませないで敵の攻撃を粉碎しなければいけません。

そのために、三・二八は本当に重要だと思えます。三・二八の集会いかんで、二期工事を阻止できるかどうかが決まってくると思えます。

その場合に重要なのは、なんといっても労働者の決起です。もっとも多くの労働者が、それぞれの労組の旗をおしたてて三里塚現地におし寄せ、連帯のアピールを実現できるようにしたいのです。

昨年末の一二・三集会の成功の力を出発点に、労戦「統一」反対の新しい潮流をつくりだし、それを三・二八、十万人結集へなんとしてももっていきたいし、それは絶対可能だと思えます。

私達動労千葉は、きたる三・六ジェット決戦ストライキ一周年を期して、「八〇年代を闘う全国労働者大集会」を津田沼・習志野文化ホールで開催し、三・二八へと大きく決起していく決意です。そのことが国鉄三五万人体制を粉碎し、右翼労戦「統一」を粉碎し、八二春闘に勝利することとなります。八二年も予想される権力・当局と一体となった動労「本部」革マル反動分子の組織破壊攻撃を打ち破り、今年も高々と鉄輪旗を掲げて闘い抜く決意を申し上げて新年のごあいさついたします。